

三重大学「学生海外チャレンジ応援事業」報告書

計画タイトル	採択コース
食品と医薬品における日本とドイツとの相違点は？	Aコース

学生情報	
氏名	近田 侑奈
所属学部・研究科	生物資源学部
学年(出発時)	3

渡航先情報	
渡航先	ドイツ連邦共和国 バーデン＝ヴュルテンベルク州 ハイデルベルク市
渡航先滞在期間	2023年9月10日 ～ 2023年9月23日
訪問先機関等	ハイデルベルク大学
訪問先機関での身分	学生

渡航概要と内容
ドイツに渡航して、食品・医薬品の2つの観点で日本との違いを調査した。日本との違いについて理解を深め、配属される研究室での学びを、今後の大学生活に活かそうとした。 食品について…味覚調査とBio商品の調査を行った。味覚調査については、2年生後期の授業で履修した「国際理解実践(海外フィールド研修)」での経験を活かした。当時はベトナムに渡航し、食品に関するフィールド調査を行った。 Bio商品とは、Bio-Siegelの認証マークがある商品で、このマークはEUの有機栽培の基準を満たした農産物や商品に付与される。欧州では環境保護の意識が高く、認知度が高い商品であるが、日本では認知度が低い。商品の陳列規模やドイツ人の環境意識の高さを調査し、日本の環境に配慮した商品との相違点を考察した。 医薬品について…dm(薬店、薬局)に行き調査を行った。日本では容易に購入不可能な成分「メラトニン」が含まれる商品を中心に調査を実施した。メラトニンは睡眠ホルモンとも呼ばれていて、睡眠の質を上げると考えられている。日本では医療用医薬品に属し、商品棚に陳列されていない。パッケージの成分表比較や薬局での販売状況を数店舗にわたって調査した。 また、滞在期間のうち平日の午前中は語学学校へ通い、英語コースを受講した。英語でしかコミュニケーションを取れない環境で、幼少期から培った英語力をさらに向上させる目的で学んだ。

渡航により達成できたこと
食品について…予想以上にBio商品が陳列されているのを確認できた。また、Bio商品を実際に購入し試したところ、独特な臭みを感じる商品があり、味も正直美味しくなかった。有機栽培の商品は、日本では流通がドイツより少なく耐性がついていないからではないかと考えた。また、スーパーではペットボトルを回収する場所があり、利用するとデポジットが貰えるリサイクルの取り組みを確認できた。これは日本も見習うべきと感じた。 医薬品について…「メラトニン」が含まれる商品はスプレー、錠剤、グミ、お湯に溶かし飲むタイプ、と多種多様あり、渡航前の予想より、販売規模が大きいことを学んだ。それ以外にも、ニベア商品(ドイツ発祥)のバリエーションが、日本とは比べ物にならないほど非常に多いことは興味深かった。 語学学校について…スピーキングを重視した授業形態であり、オンライン英会話で鍛えた力をさらに向上させることが出来た。オールイングリッシュで授業を受けることで、言語化する前に、英語で物事を考える練習が出来た。

渡航を通じて感じたこと・学んだこと

渡航前はドイツの環境に配慮した取り組みに注目していたが、実際に足を運ぶと、そうではない生活様式も発見し、非常に衝撃的だった。食品と医薬品における日本との相違点を考える以外にも、一つ一つの何気ない出来事においても考える機会が非常に多く、新鮮だった。例えば、電車で乗車しようと駅のホームで待っていても高確率で遅延する、電車の停車位置が表示されている場所よりもかなり手前で停まる、ホームが直前に変更になり走る必要があったりと、日本では起こらないが、ドイツでは日常的な出来事を経験できた。また、身体に障がいのある人を街で多く見かけた。その人たちがトラムや電車に一人で乗車するとき、見て見ぬふりをする人が少なく、積極的に手を差し伸べる人が日本より多いと感じた。

知らない人ともスーパーやトラムで楽しく会話している人が多く、日本とのギャップを感じた。さらに装いも日本と比較して多種多様であり、自分自身を自由に表現している人が多いと感じた。人目を過度に気にして行動する人が少なく、良い刺激を感じた。

今回の経験を今後の学修及びキャリアパスの中でどのように活かしていくか

渡航前、将来は食品と医薬品の両方の商品を扱う企業に就職したいと考えていた。今回の海外チャレンジを通じて、それらの企業の中でも、世界と関わりを持つ企業に対してより関心を持った。渡航時、本当に多くの方と話す機会があり、自分の将来についてゆっくりと考えることが出来た。「世界と関わりを持つ」と言っても、外資系企業、日本の企業で海外にも拠点がある企業など様々な形態があると感じた。例えば研究職の中でも開発系、品質管理系などがあるが、今後の学修を通じて、一番興味がある形態は何かを探索しようと考えている。そして、まずは研究室での学びを通じて、どこかの企業にも通用するような専門知識を身につけたいと思った。

また、多くの人たちのサポートのおかげで海外チャレンジを行うことが出来て、数多くのことを得られたと感じた。今後、三重大学では、留学生へ自分ができる範囲で最大限のサポートを行っていきたいと思っている。

この事業での渡航を考えている学生へのアドバイス

この事業には様々なサポートがあり、特に金銭面で非常に感謝しています。さらに計画力、実行力、思考力など本当に多くの力が養われると感じました。メディアなどでしか見たことがない場所へ実際に足を運び、その空気に触れることでしか味わえない感情があります。新しい人との出会いなどもあり、全ての出来事に心が躍る毎日でした。

一方で、提出前に自分の計画に不安を持つことが何回かありました。提出直前には計画内容や安全面等でさらに不安になり、申請するか否かで悩んだこともありました。最終的に不安要素をなくす努力をして海外チャレンジを実行できました。少しでも興味があるなら応募するべきだと思いますが、計画時には安全面など、準備や下調べを入念にした方がいいと思います。コロナもようやく落ち着いてきた今だからこそ、この事業での渡航を積極的に考えてほしいです。

計画全体にかかった費用(自己負担分も含めて、日本円で記載すること。)

渡航費(往復)	325,000円
海外旅行保険	12,420円
学費(教科書代や大学等プログラム授業料等)	75,500円
宿泊費	87,500円
光熱費	0円
食費	70,000円
その他	144,000円
合計	714,420円